

食品産業経済研究特論 (2単位)

担当者氏名 藤島 廣二

◆学習・教育目標

近年、食事の形態が大きく変化している。例えば、高齢化社会の展開に伴って外食や中食が増えたのはもちろんのこと、内食（家庭内での食事）についても個食（個々人が異なる惣菜を食べる）・孤食（家族が別々に食事を取る）化が進んでいると言われている。

こうした変化に伴って、当然、食品産業（外食・中食・給食産業、食品製造・加工産業、食品卸・小売産業）も大きく変わりつつある。すなわち、かつては野菜などは原体での流通が一般的であったが、最近はカット野菜の流通はもとより、総菜や冷凍野菜、ジュースと言った加工品での流通が大幅に増え、中食産業や加工食品産業の地位が著しく高まった。

本特論では、こうした食品産業の変遷を理解し、今後の動向をも予測できる能力を養う。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

<u>外食</u>	<u>高齢化</u>	<u>個食</u>	<u>加工食品</u>
<u>中食</u>	<u>内食</u>	<u>孤食</u>	<u>食の社会化</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	食品産業基礎理論	基本用語の理解と既存の書記品産業	用語の内容に関する共通認識を得ると
2	(第1～3週)	基礎理論を把握する。	同時に、基礎理論を把握する。
3	〃	〃	〃
4	食品製造業、外食企業、	食品製造業等の業種別に既存の研究	既存研究をレビューすることによって
5	中食企業、食品流通業に	成果を整理し、それぞれの内容を批判	研究方法や自分の研究視点を明確化する。
6	関する既存の研究成果	的に検討する。	
7	のレビュー	〃	〃
8	(第4～第10週)	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	食品産業の今後の展開	各自が特定の業種に絞り込んで、聴取	食品産業に対する調査方法を会得する
12	方向の解明	調査等を行い、それによって現在の問	と同時に、調査結果の理論化の方法や論
13	(第11～第15週)	題点を究明し、さらに今後の展開方向	文のまとめ方をも会得する。
14	〃	のあり方を検討する。	〃
15	〃	〃	〃

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

新版食料・農産物流通論／藤島他／筑波書房(2012年)、業務・加工用野菜／藤島他／農山漁村文化協会(2008年)

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

各自の報告と他者の報告に対する質問とに基づいて評価する。

◆その他受講上の注意事項

現実を踏まえた独自の理論を展開するつもりで議論に参加するように務めること